

■小島烏水 登山家、紀行文家。銀行勤めの傍ら、日本の登山文化の基礎。浮世絵や西洋版画の蒐集鑑賞でも著名。

こじまうすい

明治6年政変 1873= 名東県高松(高松市)で、小島寛信・サクの長男に生まれる。

初の民間工場1875= 2歳：一家で上京、

大久保暗殺・1878= 5歳：父が横浜税関吏となり、神奈川県戸部村(横浜市)に移住。

琉球処分・・・1879= 6歳：戸部小学校に入学、

明治14年政変1881= 8歳：

新体詩抄・・・1882= 9歳：老松小学校を経て、

帝国大学始・1886=13歳：太田小学校を卒業し、

国民之友始・1887=14歳：横浜商法学校に第4期生として入学。

国民之友始・1887=15歳：この年、横浜商業学校と改称される。

帝国憲法発布1889=16歳：「少年文庫」誌第1集に短文が掲載され、

帝国議会始・1890=17歳：「同級生と学校初の文芸誌を創刊、すぐに廃刊になり、学内外の同好者と文学雑誌(学燈)を創刊。

足尾鉍毒始・1891=18歳：

大本教・・・1892=19歳：卒業し、横浜の鮫島法律事務所勤務、

アイザック商会に移り、
日清戦争始・1894=21歳：徴兵検査は丙種不合格となるも、岡野金次郎と知り合う。

日清戦争終・1895=22歳：雑誌「文庫」に投稿を始め、

白馬会・・・1896=23歳：「一葉女史」が掲載され評価される。横浜正金銀行に入社。志賀重昂の「日本風景論」を入手し熟読、

八幡製鉄始・1897=24歳：「文庫」の記者を委嘱され、烏水と号する。

Bushidou・・・1899=26歳：処女文集「扇頭小景」を出版。

ビアノ国産化・1900=27歳：「明星」に創刊号から寄稿。「日本風景論」に触発され、岡野と本州縦断徒歩の旅を企画し、乗鞍岳登山、

教科書疑獄・1902=29歳：与謝野鉄幹・文学者同好会出席を兼ねて、晶子夫妻と関西旅行。「岡野と槍ヶ岳登山」。

日比谷公園・1903=30歳：結婚。「偶然入手した本で知ったイギリス人宣教師ウェストンと交流を始める。「文庫」に「槍ヶ岳探検記」。

日露戦争始・1904=31歳：「太陽」に「甲斐の白峰」を発表して、注目され、

日露戦争終・1905=32歳：*武田久吉らとともに、山岳会(後の日本山岳会)を創立。「日本山水論」出版。

満鉄発足・・・1906=33歳：「烏水文集」出版。「機関誌(山岳)を創刊し、

以後、多くの論文、紀行文を書いて、近代登山の普及に努める。

この年、北海道から上京してきた石川啄木が横浜正金銀行に来訪。「山水美論」出版。

伊藤博文暗殺1909=36歳：同志と白峰・赤石岳を縦断するなど、多くの記録的登山を行う。

韓国併合・・・1910=37歳：主著「日本アルプス」第1巻刊行、

大逆事件判決1911=38歳：*「文章世界」で、「文界十傑」の紀行文家に選ばれる。

明治天皇没・1912=39歳：前年急逝した大下藤次郎の後を受け、「みづゑ」の編集を担当。

大正政変・・・1913=40歳：茨木猪之吉山岳画頒布会を開く。「浮世絵の研究家としても知られ、

第一次大戦始1914=41歳：「浮世絵と風景画」を出版。

21ヶ条要求・1915=42歳：「日本アルプス」4巻を完結。浮世絵研究雑誌(浮世絵)を創刊後、横浜正金銀行ロサンゼルス分店長として、アメリカに赴任、

民本主義・・・1916=43歳：「ロサンゼルスで、「K.小島コレクション～日本版画展」開催。

本格政党内閣1918=45歳：シアトル支店副支配人だった弟とワシントン州レーニア山に登る。カリフォルニア州シャスタ山に登る。

ベルサイユ条約・1919=46歳：休暇得て、一時帰国。サンフランシスコ支店長に異動。

大暴落・・・1920=49歳：アメリカ東部を訪れ、諸都市の美術館や図書館を見学。この年、「浮世絵」が廃刊。

原敬首相暗殺1921=48歳：父が死去。

護憲三派圧勝1924=51歳：母が死去。「サンフランシスコで、小島烏水蔵浮世絵展開催。

円本時代始・1926=53歳：「ワシントン州パーカー山に日本人初の登頂。

金融恐慌・・・1927=54歳：帰国。頭取席電信課長。秩父宮に招かれ、高松宮も同席するなか、アメリカでの登山の話が披露。

共産党事件・1928=55歳：(東京朝日新聞)主催で「小島烏水蒐集泰西創作版画展覧会」。

世界恐慌・・・1929=56歳：「同好の志と、雑誌(浮世絵志)を創刊。彰美会第1回浮世絵展覧会を開催し、以後、続けて普及に努める。

海軍軍縮条約1930=57歳：秘書課長後、退社。豊年製油監査役。「三世歌川豊国大首役者絵集」を出版。

満州事変・・・1931=58歳：東京阿佐ヶ谷に新居を建て、移住。「江戸末期の浮世絵」出版。*日本山岳会初代会長、

五一五事件・1932=59歳：「氷河と万年雪の山」出版。

帝人疑獄事件1934=61歳：「書斎の岳人」出版。

芥川直木賞始1935=62歳：*会長辞任し、名誉会員。

二二六事件・1936=63歳：「アルピニストの手記」出版。

日中戦争始・1937=64歳：

健保+総動員 1938=65歳：豊年製油も辞任し、

第二次大戦始1939=66歳：山中湖畔の別荘で静養。

日米開戦・・・1941=68歳：蒐集した浮世絵版画を売り立てにかける。日本山岳会顧問。

創価学会検挙1943=70歳：日本版画奉公会が創設され、顧問。「山谷放浪記」出版。

年金+総武装 1944=71歳：親友茨木猪之吉が穂高山で遭難。

敗戦・・・1945=72歳：山形県出羽村に疎開。

極東裁判決・1948=75歳：筆録して貰って「山の風流使者」を脱稿後、没した。